

## 木材供給不足「ウッドショック」の背景

2021年4月に入ってから住宅業界を騒がせている、日本国内も含め、世界中で深刻な木材価格の高騰・供給不足になっているのをご存知でしょうか。これはオイルショックになぞらえて「ウッドショック」と呼ばれ、国内の木材業界、住宅業界では大変な混乱になっています。

ウッドショックとは簡単に言えば、北米や中国における木材需要の増大と供給不足で日本に輸入材が入って来なくなり、それにつられて国産材の需要も増え入手困難になるという状況です。原因としてはいくつか挙げられますが、

- アメリカにおけるコロナ禍による住宅需要の増大：ステイホームやDIY需要、超低金利の住宅ローンが引き金
- 中国の木材需要の増大：元々経済成長により需要が増大しており、コロナ禍からも早期に回復しつつある
- コロナ禍により木材輸送を担うシッパー（船便）不足が事の発端：それにより日本へ海外産の木材製品が供給されなくなっている

日本の木材自給率は年々上がってきていますが、それでも建築用材の約6割～7割を輸入に頼っています。特に価格とボリューム重視の大手ビルダーなどは主な構造材は輸入材を使っています。

木材は他のパーツと違って、揃わなければ家が建てられません。これまで輸入材を使っていたビルダーなどは急いで国産材に切り替え、買い求めるようになりました。国産材については、いま最もウッドショックの影響を受けて取り合いになっているのは市場に流通している製品です。製品市場でその時々に必要なものを仕入れて売っていたプレカット工場や問屋さんなどが、仕入れの値上がり、もしくはそもそも仕入れができないという状況になっています。



## イデキョウホームの対応について

イデキョウホームでは、柱、土台などの主要構造材の約50%以上、国産木材を使用しています。また、製品市場の流通品を買うのではなく、メーカーである製材工場と直接取引をしてプレカット工場へ加工依頼していますので世界的なウッドショックの影響が比較的軽微といえます。

（製材工場は丸太を仕入れて自社で製造するため、まだ丸太の高騰などは起きていないので比較的安定して生産ができています。）

私たちは、建物の耐久性やデザイン的な質感、安全安心、そして国内や地元の木材産業への貢献という理由で、国産材を採用してきました。元々、製材業からやってきたので、国産の木を使うことはごく自然なことでもありました。そのことは今回のウッドショックを考えても、間違いではなかったと感じています。特に、木材の産地やメーカーさんと地道に信頼関係を結ぶことは大切なことだと痛感しています。



富士の恵みで建てる家。

創業昭和23年

**イデキョウホーム** 株式会社



【本社】富士市伝法1335番地



9:00～18:00 (休) 年末年始、夏期 (緊急時24時間対応)



idekyo-home@yr.tnc.ne.jp



<http://www.idekyo.com/>

お問い合わせ先(フリーダイヤル)

**0120-122-975**

イデキョウホーム 検索